

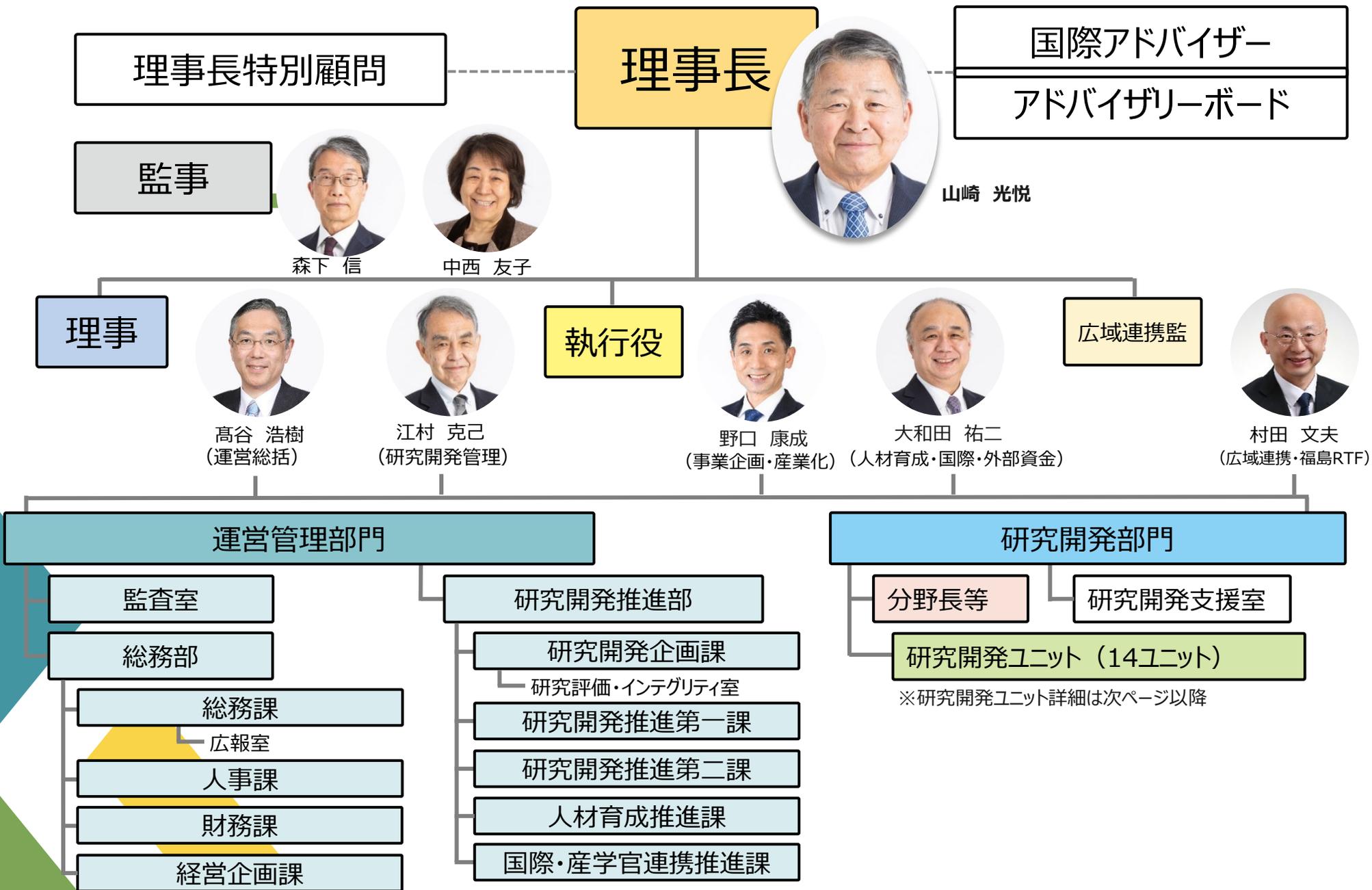
F-REIの最近の動き

2025年7月15日

福島国際研究教育機構

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

福島国際研究教育機構（F-REI）の組織体制



F-REIの研究開発部門について

分野長等	
ロボット	野波分野長
	松野副分野長
農林水産業	佐々木分野長
	荒尾副分野長
エネルギー	矢部分野長
	秋田副分野長
	錦谷副分野長
放射線科学・創薬医療	片岡分野長
	山下副分野長
	茅野副分野長
	絹谷副分野長
原子力災害に関するデータや知見の集積・発信	大原副分野長

➤ 専門的知見を活かし、各分野における研究開発を戦略的に推進

研究開発ユニット	
ロボット	遠隔操作研究ユニット
	自律化・知能化・群制御研究ユニット
	燃料電池システム研究ユニット
	パワーソフトロボティクスユニット
農林水産業	土壌・植物マルチダイナミクス研究ユニット
	土壌ホメオスタシス研究ユニット
エネルギー	水素エネルギーシステム安全科学ユニット
	森林バイオマス活用有機合成ユニット
放射線科学・創薬医療	植物イメージング研究ユニット
	放射線基盤技術開発ユニット
	放射性創薬ユニット
原子力災害に関するデータや知見の集積・発信	地域環境共創ユニット ※
	原子力災害医科学ユニット
	大規模災害レジリエンス研究ユニット

➤ 5分野において、それぞれ研究を実施。

※これまでの放射生態学ユニットの研究とJAEA及びNIESが実施していた放射性物質の環境動態研究を踏まえ、地域環境共創ユニットとして再編（令和7年4月）

分野長・副分野長

概要

分野長、副分野長は、各分野における研究開発を戦略的に推進していくため、各分野において専門的知見を有する外部の研究者を分野長及び副分野長として任命しているもの。

➤ 分野長

担当する分野における研究課題を具体化し、研究の進め方等に係る調整・管理を行い、また、将来のF-REIの研究グループの確保に向けた調整など、研究に関する総合的な業務を行う。

➤ 副分野長

副分野長は分野長を補佐し、また、分野長とは異なる専門的知見に基づく研究課題の調整等を行う。

ロボット



【分野長】野波 健蔵（のなみ けんぞう）
一般社団法人日本ドローンコンソーシアム 会長



【副分野長】松野 文俊（まつの ふみとし）
大阪工業大学工学部電子情報システム工学科 特任教授

農林水産業



【分野長】佐々木 昭博（ささき あきひろ）
東京農業大学総合研究所 参与（客員教授）



【副分野長】荒尾 知人（あらお ともひと）
元農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センター 所長

エネルギー



【分野長】矢部 彰（やべ あきら）
新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センター フェロー



【副分野長】秋田 調（あきた しらべ）
一般社団法人電力中央研究所 名誉特別顧問



【副分野長】錦谷 禎範（にしきたに よしのり）
早稲田大学ナノライフ創新研究機構ナノテクノロジー研究所 招聘研究員



【分野長】片岡 一則（かたおか かずのり）
公益財団法人川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター長



【副分野長】山下 俊一（やました しゅんいち）
福島県立医科大学 副学長

放射線科学・創薬医療



【副分野長】茅野 政道（ちの まさみち）
量子科学技術研究開発機構 前理事



【副分野長】絹谷 清剛（きぬや せいご）
金沢大学 副学長

原子力災害に関するデータや知見の集積・発信



【副分野長】大原 利真（おおはら としまさ）
一般社団法人日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター 所長

令和7年2月5日（水） F-REI市町村座談会の開催（県南地域）

2月5日、F-REI市町村座談会（県南地域）を開催しました。

本座談会は、福島県主催の「イノベ構想参画促進セミナー」と合同で開催したものです。

座談会では、山崎理事長から「F-REIの創造的復興への挑戦」と題し講演を行った後、県南地域の市町村、企業・団体等を代表する方々から「科学技術や産業で考える、ふくしま（県南地域）の未来」のテーマのもと多くの貴重なご意見をいただきました。

また、翌日は、白河オリンパス株式会社、住友ゴム工業株式会社白河工場を訪問し、視察及び意見交換を行いました。



令和7年2月17日（月） 第3回広域連携ワーキンググループの開催

2月17日、第3回広域連携ワーキンググループ（WG）を相馬市で開催いたしました。

WGには、復興庁、福島県、浜通り地域等15市町村、福島イノベーション・コースト構想推進機構が参加し、会議では、F-REIから事業の進捗状況について報告した後、福島県及びF-REIから市町村座談会についての報告を行いました。その後、復興庁及び福島県から令和7年度予算案について、復興庁からF-REI施設整備の状況について報告があり、最後に広域連携に関する取組について意見交換を行いました。



令和7年2月27日（木） 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 と協定書を締結

2月27日、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU, WPI)とF-REIは研究協力に関する協定書を締結しました。

今後、この協定に基づいて、双方の資源を有効に用いるなど互恵的な連携協力を進めていきます。

また、締結式後、Kavli IPMU の横山順一機構長にご案内いただき、Kavli IPMU棟を見学しました。



令和7年3月4日（火） 英国原子力公社（UKAEA）と覚書の締結式を実施

3月4日、英国原子力公社（UKAEA）とロボット分野での協力に関する覚書（MOC）の締結式を行いました。

山崎理事長一行が訪英し、英国ロンドン郊外にあるUKAEAカラムキャンパスで締結式を実施しました。締結式では、山崎理事長とロブ・バッキンガム（Prof. Rob Buckingham）UKAEA理事がMOCに署名を行いました。

その他、山崎理事長一行は、関連施設（RACE、セラフィールド原子力関連施設、RAICo1）を視察し、関係者と意見交換を行いました。



令和7年3月12日（水） F-REI市町村座談会の開催（浜通り地域等・農林水産業分野）

3月12日、F-REI市町村座談会（浜通り地域等・農林水産業分野）を浪江町で開催しました。

本座談会は、研究開発・産業化・人材育成の取組における広域連携体制の構築を図るため、市町村や住民、企業・団体等、多様な主体と対話する場として開催するもので、今回はF-REIの研究開発分野の1つである「農林水産業分野」を取り上げました。

座談会では、F-REIの農林水産業分野における研究開発事業について報告を行った後、スマート農業の研究者や事業者、浜通り地域の農業従事者を代表する方々を交えたパネルディスカッションを行い、「スマート農業」をテーマに多様な視点から活発に議論いただきました。また、屋外の展示スペースにおいては、自動運転トラクタや農薬散布ドローン、農業用水利施設管理省力化ロボット等のスマート農業機械の展示を行い、各ブースには多くの来場者が集まり盛況を呈しました。



令和7年3月17日（月） 令和6年度第1回 F-REI産学官ネットワーク・セミナーを開催

令和7年3月17日（月）に、福島県内外の企業も巻き込んだ産学官の連携体制構築を目的に福島県内で初となる産学官ネットワーク・セミナーを郡山市（ホテルハマツ）で開催しました。

今回は、『“なりわい”における最先端技術の応用』と題して、第一部で、F-REIが実施する最先端のロボット研究等の紹介を行い、第二部では、福島県内外の企業からの産学連携事例の紹介を行いました。そして第三部では、第一部と第二部の登壇者が、企業との共同研究等、F-REIの研究成果の社会実装を目指すうえで取り組むべきことについてのディスカッションを行いました。

当日はオンライン含め、企業の皆様を中心に188名の大勢の方にご参加いただき、大盛況のうちに開催することができました。

※詳細は下記HPをご確認ください。

https://www.f-rei.go.jp/activity/f-re_20250327.html



令和7年3月27日（木） 国立大学法人筑波大学と基本合意書を締結

3月27日、国立大学法人筑波大学とF-REIは連携協力に関する基本合意書を締結しました。

今後、この基本合意書に沿って、双方の資源を有効に用いるなど互恵的な連携協力を進めていきます。



令和7年4月1日（火）

環境創造センター三春町施設における放射性物質の環境動態研究のF-REIへの統合、福島ロボットテストフィールドのF-REIへの統合

■ 環境創造センター三春町施設における放射性物質の環境動態研究のF-REIへの統合

4月1日、F-REIの基本構想に位置付けられた「司令塔」の機能を発揮するため、JAEA及びNIESが環境創造センター三春町施設において実施していた放射性物質の環境動態研究については、F-REIに統合しました。

F-REIでは、本統合により、これまでの放射生態学ユニットの研究、JAEA及びNIESが実施していた研究を踏まえ、放射性物質の環境動態に関する研究の一体的・総合的推進を図ります。



■ 福島ロボットテストフィールド（RTF）のF-REIへの統合

4月1日、福島県が管理・運用していた福島ロボットテストフィールド（RTF）について、これまでの機能及び成果をF-REIが継承するとともに、ロボット分野を中心とするF-REIの研究開発、産業化、人材育成に関する機能をRTFに付加することにより、RTFの更なる発展・活用を目指すために、F-REIに統合しました。

F-REIでは、統合後のRTFの活用を通じて、世界水準の研究とその成果の社会実装・産業化を進め、RTFを利用する企業・研究機関との共同研究等によりその成果の最大化を目指します。



- ▶ 東京電力福島第一原子力発電所事故により飛散した放射性物質の環境中の挙動を解明するため、日本原子力研究開発機構（JAEA）及び国立環境研究所(NIES)では、環境創造センター（三春町）において、放射性物質の環境動態研究に取り組んできたところ。
- ▶ 令和5年4月に福島国際研究教育機構（F-REI）が設立され、F-REIの基本構想に位置付けられた「司令塔」の機能を発揮するため、放射性物質の環境動態研究については、令和7年4月からF-REIへ統合された。

令和6年度までの体制



*量子科学技術研究開発機構

**研究の
一体的推進
(統合)**

令和7年度からの新たな体制

環境創造センター（三春町）及び
福島県立医大分室



**福島国際研究教育機構
地域環境共創ユニット**

※これまでの放射生態学ユニットの研究、
JAEA及びNIESが実施していた研究を踏まえ、
地域環境共創ユニットとして再編し、
放射性物質の環境動態研究を一体的に実施。

※環境創造センター（三春町）での研究に必要な
資機材等は、JAEA及びNIESから無償譲渡される
予定。



環境創造センター（三春町）

RTF統合の基本的な考え方 （令和6年6月14日 福島県・F-REIの基本合意書より）

本統合は、（中略）RTFのこれまでの機能及び成果をF-REIが継承するとともに、ロボット分野を中心とするF-REIの研究開発、産業化、人材育成に関する機能をRTFに付加することにより、RTFの更なる発展・活用を目指すために行われるものである。このため、F-REIは、統合後のRTFについて、世界に類を見ない開発実証拠点としての機能を維持・発展させつつ、F-REIとして必要な研究開発や実証等の拠点として活用するものとする。また、F-REIは、福島県の協力の下、RTFの活用を通じて、世界水準の研究とその成果の社会実装・産業化を進め、RTFを利用する企業・研究機関との共同研究等によりその成果の最大化を目指す。あわせて、福島県は、F-REIが統合後のRTFを円滑かつ効果的に運営することができるよう、F-REIと緊密な連携を図るものとする。

【令和6年度まで】福島県の施設

統合期日：令和7年4月1日

【統合後】F-REIの施設



福島県がF-REIに
現物出資

開発実証等の機能

（指定管理者：福島イノベ推進機構）

- ・RTFを産業集積の核として、浜通り地域等でのロボット・ドローン等の開発実証や関連企業の立地が活発化。
- ・RTF活用事例：1196事例（2017.9～2025.3）
- ・浜通り地域等への
ロボ関連新規進出企業数 約80社

福島県ハイテクプラザ
南相馬技術支援センター

研究開発等の機能（F-REI）

- ・過酷環境で機能を発揮するロボット・ドローン等の研究開発。
（例）困難環境下でのロボット・ドローン活用促進に向けた研究開発、WRS過酷環境F-REIチャレンジ等を通じた、性能評価手法の研究開発

開発実証等の機能

（受託者：福島イノベ推進機構※）

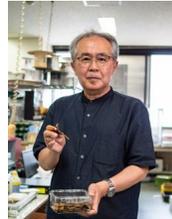
- ・RTFを産業集積の核として、浜通り地域等でのロボット・ドローン等の開発実証や関連企業の立地を引き続き推進。

福島県ハイテクプラザ
南相馬技術支援センター

これまでの機能及び成果を継承

事業を継続（F-REIに協力）

令和7年4月1日（火） 新たなユニットリーダーの就任について発表

分野	ユニット名	ユニットリーダー（ ）は兼務先
ロボット分野	パワーソフトロボティクスユニット 「大きなパワーと頑丈な身体」と「優しく器用な作業能力」を兼ね備え、災害現場など過酷環境でもタフにかつ優しく仕事をこなす過酷環境下ロボットの実現を目指す。	鈴木 康一（専任） 横浜国立大学大学院工学研究科博士後期課程 生産工学専攻修了（工学博士） 東京科学大学名誉教授 
原子力災害に関するデータ・知見の集積・発信分野	地域環境共創ユニット 環境中での放射性物質の生態系への移行に係る人間活動の影響を想定した移行抑制対策の効果の評価を踏まえ、住民との対話と協働を進めることにより福島環境回復と復興を目指す。	林 誠二（国立環境研究所） 東北大学大学院工学研究科博士課程土木工学専攻修了 現在は、国立研究開発法人国立環境研究所 福島地域協働研究拠点研究グループ長 
	原子力災害医科学ユニット 原子力災害に係る医科学や公衆衛生学に関する研究開発を行う。	高村 昇（長崎大学原爆後障害医療研究所） 長崎大学医学部大学院医学研究科卒業（医学博士） 長崎大学原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野教授 東日本大震災・原子力災害伝承館館長 福島大学環境放射能研究所副所長 東日本国際大学客員教授 

- ※ ユニットリーダーの下にユニットサブリーダー、研究員等を今後配置予定。
- ※ これまでの放射生態学ユニットの研究と日本原子力研究開発機構及び国立環境研究所が実施していた放射性物質の環境動態研究を踏まえ、地域環境共創ユニットとして再編する。

令和7年4月26日（土） 福島国際研究教育機構 起工式を開催

4月26日、F-REI本施設予定地で「福島国際研究教育機構 起工式」が開催されました。

起工式では、山崎理事長より祝辞を述べるとともに、工事の安全や円滑な進行を祈願して伊藤復興大臣、内堀福島県知事、浜通り地域等15市町村の首長等と共に鍬入れを行いました。

F-REI本施設について、本部施設棟は令和10年度完成を、研究施設等その他の施設は令和12年度末までの順次供用を目指しています。



令和7年4月26日（土） F-REI 2周年記念シンポジウムを開催

4月26日、F-REIの「2周年記念シンポジウム」を浪江町で開催しました。

F-REIの創設から2年が経過し、組織・人員の整備が進むとともに、研究ユニットの創成、企業等とのネットワーク形成、人材育成等の取組が本格化しつつあります。本シンポジウムは、こうした節目にこれまでの活動を振り返り、今後の展望を広く共有することを目的に開催したものです。

山崎理事長や大西ユニットリーダー、復興庁鈴木参事官による講演のほか、浜通り地域の未来を描く地域の子どもたちによる発表や、参加者の皆さまにお楽しみいただけるコンテンツの展示などを行いました。

当日は、ご来賓の皆様を含め、295名の大勢の方にご参加いただき、大盛況のうちに開催することができました。



令和7年4月26日（土） 「エフとも」を創設

4月26日、福島浜通り地域等を中心とした教育・科学・文化の振興プラットフォーム「エフとも」を創設しました。

「エフとも」は、F-REI および福島県浜通り地域等に拠点を有し、地域の教育、科学、文化等の振興を目的とした機関が、それぞれ主催し、取り組んでいる活動について、広域連携により取組の効果を高めるため、これらの活動の相互扶助（互助）を行う仕組みです。これにより、互いの活動内容を理解しつつ、より身近な存在として広く地域に認知していただく一助とします。

F-REI では、この「エフとも」を通じて、多様な機関との連携を深め、「共感」と「巻き込み」を高めていくことで、メンバー機関の取組のインパクト最大化を図ってまいります。



「エフとも」とは

- 福島浜通り地域等を中心とした教育・科学・文化の振興プラットフォーム（事務局：福島国際研究教育機構（F-REI））
- メンバー機関の活動について、広域連携により取組みの効果を高めるため、相互扶助（互助）を行う仕組み。

次代を担う人材を育て、未来をつくっていく
取組みを応援

地域とともにコミュニティ創成を進めていく
取組みを応援

未来をつくる

- 出前授業
研究者等による学校での出前授業等
- F-REIインターンシップ
企画運営・研究開発支援の
インターンシップ等を提供
- F-REIサイエンスラボ
地域イベント等での開催
など

コミュニティ
創成を進める

- 交流会
各市町村や業務の垣根を超えた活動範囲の拡大
- ボランティア協力
メンバー機関主催のイベントへの相互協力
- コミュニケーションツールの活用
Slackを活用しチャンネル開設
など

「エフとも」を通じて、
「共感」と「巻き込み」を高め、メンバー機関の取組みのインパクト最大化を図る

メンバー機関

自治体、大学等教育機関、まちづくり団体、その他浜通り地域等で活動する機関、全34団体が参画（7月15日現在）

スケジュール

- 4月26日 「エフとも」設立
- 5月28日 第1回通常総会

福島県、福島県教育委員会

市町村

飯舘村、いわき市、大熊町、葛尾村、川内村、川俣町、新地町、相馬市、田村市、浪江町、楡葉町、
広野町、双葉町、南相馬市

大学等教育機関

会津大学、いわき短期大学、大阪大学、東北大学グリーン未来創造機構、東日本国際大学、
弘前大学、福島県立医科大学、福島工業高等専門学校、福島大学

まちづくり支援機関

葛尾むらづくり公社、かわうちラボ、とみおかプラス、なみとも、ふたばプロジェクト、
まちづくりなみえ

その他浜通り地域等で活動する機関

福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島相双復興推進機構

福島国際研究教育機構 (F-REI)

全 3 4 団体が参画

※ 7月15日現在

令和7年5月19日（月）～24日（土） 2025年大阪・関西万博に出展

F-REIは、2025年大阪・関西万博において、5月19日（月）から24日（土）の間、復興庁万博テーマウィーク展示「東日本大震災からのよりよい復興（Build Back Better）」に、ブース出展を行いました。

F-REIのブースでは、F-REIが描く未来像や取組内容をアニメーションで紹介しながら、F-REIの研究が作り出す未来の森や街、研究所の姿をご覧ください。

会期中は、6日間で延べ1万人を超える多くの皆様にご来場いただきました。お子さまから大人まで幅広い世代の方々にお越しいただき、連日大盛況のうちに展示を終えることができました。



令和7年6月2日（月） 新たなユニットリーダーの就任について発表

分野	ユニット名	ユニットリーダー（ ）は兼務先
エネルギー分野	森林バイオマス活用有機合成研究ユニット 森林バイオマスを資源として活用し、化学品(液体燃料等)を効率よく合成するための触媒技術等に関する研究開発を行う。	山口 和也（東京大学大学院工学系研究科 教授） 大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了（博士(工学)） 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻にて教育と研究に従事 
原子力災害に関するデータ・知見の集積・発信分野	大規模災害レジリエンス研究ユニット 複合災害を含む大規模災害の克服に向けた、レジリエントな社会の実現に資する研究を行う。	関谷 直也（東京大学 教授） 東京大学大学院人文社会系研究科社会情報専門分野博士課程（博士(社会情報学)） 東京大学大学院情報学環 教授 同総合防災情報研究センター長 東日本大震災・原子力災害伝承館上級研究員 福島大学食農学類客員教授 

※ ユニットリーダーの下にユニットサブリーダー、研究員等を今後配置予定。

令和7年7月1日（火） 新たなユニットリーダーの就任について発表

分野	ユニット名	ユニットリーダー（ ）は兼務先
放射線科学・創薬医療分野	放射性創薬ユニット 放射性同位元素を用いた診断・治療等に用いる医薬品の研究開発を行う。機構において前臨床試験まで実施し、臨床試験への導出を企図する。	絹谷清剛（金沢大学副学長） 金沢大学博士課程医学研究科修了（博士(医学)） 一般社団法人日本核医学会理事長、公益社団法人日本アイソトープ協会理事を兼任し、 金沢大学副学長として従事 当機構放射線科学・創薬医療分野の副分野長を兼務



※ ユニットリーダーの下にユニットサブリーダー、研究員等を今後配置予定。



F-REI

福島国際研究教育機構